

一般質問

川下
議員

○オンライン診療の早期実現と通院困難者を支えるモバイル診療の調査研究について

質 本市が想定するオンライン診療の仕組みにおいて、タブレット操作に不安を持つ患者へのサポート対策について伺います。

健康ほけん課長 公民館などを仮設の診察室にして患者に来ていただき、看護師が患者に寄り添い機器の操作を全面的に補助するという方法であれば、患者に不安なくオンライン診療を受診していただくことが可能と考えています。

質 今回実施を検討されているオンライン診療は離島限定か、それとも将来的に本土側の通院困難者にも対象を広げるための「先行モデル」という位置付けか伺います。

健康ほけん課長 対象地域は、青島、黒島、飛島の3つの離島を視野に入れて検討を進めており、離島以外の地域を対象とすることは現時点では考えていません。

質 高速通信網が未整備の黒島、飛島ではどのようにオンライン診療を可能にする考えか伺います。

健康ほけん課長 公民館などを活用

する形態を取る場合は、そこに専用回線の設置をするだけで済み、次世代高速衛星通信を利用することで、高速通信網が未整備の離島でもオンライン診療の実施が可能になると考えています。

○黒島・飛島における高速通信網の整備と未来への投資について

質 同じ離島の青島で先行して高速通信網が整備された背景を伺います。

総務課長 平成27年度の離島丸ごとひとつくり事業を通じた島民自らによる水産業の6次産業化と地域商社化に向けた動きがあり、この持続可能な地域活性化の動きを加速させ、実践的な販路開拓をICTで支えるため、平成28年度に先行して高速通信網の整備を実施しました。

質 黒島、飛島の住民を対象に終了した初期費用補助事業を復活させ、対象を「低軌道衛星サービスの導入費用」へ拡充できないか伺います。

市長 黒島および飛島地区での情報通信環境の向上を図るための支援は一定実施できたと考えますが、新しい高速通信技術の開発などにより通信サービス利用者の選択肢は増えています。この環境の変化を受け、当該地域で新たな通信サービスの環境整備を希望される方など、新たなニーズが出てきた場合は、何らかの支援を検討したいと思っています。

一般質問

宮田
議員

○松浦火力発電所と本市の将来像について

質 火力発電所は、電力事業の安定性の要となる「調整電源」であることや、将来的にはCCS(二酸化炭素回収・貯留技術)の技術で二酸化炭素排出量の削減が図れる見込みであり、また、大都市圏の脱炭素を実現するためには、本市のように電源がある自治体の役割は極めて大きなものとなります。松浦火力発電所に関するの考えをお尋ねします。

市長 松浦火力発電所は、本市にとって、地元関連企業や商店等への消費効果など地域経済を支える重要な産業として、今日まで地域との共存共栄によりエネルギー政策に貢献しています。総出力370万キロワットの大容量火力発電基地である松浦火力発電所は本市の重要な産業の柱であるとともに、近年の社会情勢を踏まえると、広域的にも必要な電源として将来にわたり重要な役割を担っていくものと考えています。

質 これから研究開発が進む脱炭素技術に関して、本市の考えをお尋ねします。

市長 九州電力(株)・電源開発(株)の両

電力が検討している、アンモニア混焼の実証事業やCCS導入に向けた取り組みを支援するため、国の動きを注視しながら、両電力と情報を共有し、長崎県と共に国に対し積極的に要望を続ける必要がありますし、既に長崎県、国に対して要望を行っています。

○気候変動と農業振興について

質 気候変動が原因で、市内や長崎県内の農業に影響が出ていますか。また、補償が必要なレベルの被害があれば、時期や内容などをお尋ねします。合わせて、品質劣化などがあればお尋ねします。

農林課長 長崎県内では令和5年1月の寒波により、特に、長崎市内の露地ビワの幼果が約76%凍死するという甚大な被害が起きました。本市でのビワ生産はハウス栽培が中心で、この時は大きな被害は報告されていません。また、近年、高温による障害が市内でも散見されており、令和6年10月に松浦地区メロン部会から、秋冬作のアールスメロンの高温障害による品質低下や奇形などの報告を受けています。水稲においては、生産者が高温耐性品種への切替えに取り組まれています。それ以外の品種では、米が実る時期の高温が原因で米粒が白く濁る「白未熟粒」が多く発生し、品質低下や減収になったと聞いています。